

## 氷河の融解、氷床とともに海面上昇の脅威に IPCC 特別報告書ドラフト 8/30(金) 16:30 配信

AFP=時事

氷河の融解、氷床とともに海面上昇の脅威に IPCC 特別報告書ドラフト  
エクアドル・アンデス山脈のチンボラソ火山の氷河（2019年2月18日撮影、資料写真）。  
【翻訳編集】 AFPBB News

【AFP=時事】気温の上昇に伴い極地の氷床が不安定化する中、山地氷河の後退が人類に及ぼす今後数十年の影響について、国連（UN）が報告書をまとめた。AFPはこのほど、9月に開催される気候変動に関する政府間パネル（IPCC）の「海洋・雪氷圏特別報告書」の要約のドラフトを入手した。

【関連写真】北極で記録的高温、進む氷の融解 1日37億トンの消失も

グリーンランドと南極の氷床は2015年までの10年間で毎年約4000億トン失われ、それにより毎年約1.2ミリ海面が上昇した。一方の山地氷河は同時期、毎年2800億トン融解し、海面をさらに毎年0.77ミリ押し上げた。

独ポツダム気候影響研究所（Potsdam Institute for Climate Change Impact）の気候専門家、アンダース・リーバーマン（Andres Levermann）氏はAFPの取材に対し、「過去100年に起きた世界の海面上昇の35%は氷河融解によるものだった」と述べた。だが山地氷河の量は限られているため、今後の氷河融解による海面上昇は30～50センチにとどまるとの見通しも示している。

地球上には古い広大な氷の蓄えである氷河が約20万存在しているが、極地の氷床に比べると比較的小規模なため特に気温上昇の影響を受けやすい。

### ■水資源への影響

氷河の後退は、氷河を主な水源としている内陸の人々に影響を及ぼす。

ヒマラヤ山脈（Himalayas）にある複数の氷河は、地域住民2億5000万人に水を供給すると同時に、川沿いに住む16億5000万人の食料、エネルギー、収入源ともなっている。

IPCCの特別報告書の中で触れられているある研究によると、温室効果ガスを削減し、地球温暖化を1.5度に抑えたとしても、アジア地域にある高山の氷河の3分の1以上が失われる可能性がある。だが、化石燃料を主な動力とする世界経済が今後数十年にわたって「通常通り」の活動を続ければ、それが3分の2になることも考えられるという。

IPCCは報告書で、ヒマラヤ山脈中部および西部では、既にかんがい用水が顕著に減少して

いることを指摘している。また、中欧、北アジア、スカンジナビアなど氷河がほとんどない地域では、2100年までにその80%が縮小すると予想された。

・ スイスの科学者らが今年発表した研究によると、温室効果ガスの排出が抑制されなければ、アルプス山脈 (Alps) の氷河の90%以上が今世紀末までに消失する恐れがあるという。

・

#### ■水をめぐる争い

氷河の融解による人類への影響は他にもある。

・ ボリビアの政府所在地ラパス (La Paz) の住民は乾燥する冬の数か月、水源の30%をアンデス山脈 (Andes) の氷河で賄っている。だが、2016年には水の枯渇が起きた。

・ 「約100の地域で1か月以上水がまったくない状態だった」と、サン・アンドレス大学 (San Andres University) の大気研究所所長マルコス・アンドラーデ (Marcos Andrade) 氏はAFPに当時の状況を語った。

・ 氷河による水供給が阻害されたらどうなるのかという明白な事例が示されているにもかかわらず、氷河融解では逆説的な現象が起こる。そのため、これが農業にとっていかに大きな問題であるかを説明するのは難しいとアンドラーデ氏は話す。

・ 「われわれは現在、氷河融解によりこれまで以上の水を利用できているため、農民はそれ(水不足になること)を認識できていない」「当面は良い。だが、ピークを過ぎれば水不足となり、水を求めて争うことにもなるだろう」

・ IPCC は、氷河の流出が短期的には継続するが、今世紀末までには減少に転じ、不安定さが増すとの見方を示している。また、地滑り、雪崩、水の汚染も増加することを指摘した。【翻訳編集】 AFPBB News